

十月の箱根を訪ねて

一夜城址と旧街道の石畳を歩く

横浜市 日下部治子（南城町一丁目出身）

Ｊネットサロンでの雑談中、藤澤さんが「東京の近くにも安く行つてこられる所があるんだよ」とおっしゃったのを聞きつけた私達は、是非そこへお連れ下さいとお願いをしました。宿の予約のとれた日が都合の悪い人も出て、参加できたのは藤澤さん、内藤さん、早川さんと私の四人でした。

踊り子号箱根フリー切符を求め、東京と横浜から乗車、小田原で下車して東海道線で一駅早川駅で降りて、いざ石垣山の一夜城址に向いました。

太閤農道と呼ばれる坂道を登りはじめた所で出会った珍事は上の方からみかんが次々に転がり落ちてくるのです。加速がついてまるで野球のゴロを捕球するようにとれたりました。坂を少し登った所でみかん農家の人がなり過ぎたみかん

を切落したのが弾んで道に転がり出たことがわかりました。

足を止めて二言三言交すうちに、別の木に移つて切り取つたみかんを、この木のが一番美味しいと云つて私達に手渡して下さいました。早速いだいて両側にみかん畑の続く坂道を登って行きました。坂の途中でふり返ると早川港が見ええました。

一夜城址への道は坂また坂でしたが、山男藤澤さんと、ゴルフやワンチャンとのお散歩で日々よく歩いておいでの内藤さんは足とりよく登つて行かれましたが、何の鍛錬もしていない私達はよたよたとやつとの思いで辿り着きました。

途中の道では数組のグループを見かけただけでしたが、一夜城址にはバスで来た団体客や車で来た家族連れに出会いました。穏やかな日でしたが山頂の空気は

キリツとして海岸線も美しく、直線で三キロといわれる小田原城も見渡せました。

昼食後城址を一巡してから坂道を下り、早川駅から小田原に戻り、駅前広場の騎上の北条早雲の像を見て、バスで箱根の宿へ。バス停前の宿で、この道はお正月の大学駅伝コースで宿の中からも見えるそうです。部屋も広々、海の幸の美味しい夕食をいただき、温泉のお陰で次の日も歩ける足を取戻しました。

宿の廊下の壁面には、ほど良い大きさの絵が沢山飾られていて画廊の気分で見ました。翌朝、早起きの内藤さんは散歩がてら近くにある施設などのロケーションを確かめてくれたとお話でした。

朝食後、ロビーで百円也のセルフサービスのコーヒーでひと息の後、バスで元箱根に出て、旧街道の石畳へ、山道に敷き詰められた石の道は人がすれ違える位の幅でこの道を辿れば山の向う側に出られる有難い道だったことは理解できました。この道をつくった人達の労苦が忍ばれます。

私ことになりませんが、三島の曾祖父や祖母の長姉が横浜の銀行や学校へくる時、箱根を駕籠で越えたものだとも聞いたものですが、それはもしやこの道か？とも思

いながら歩きました。

箱根は楽をしに出かけてばかりでしたが、いろいろな楽しみ方のあることを知る良い機会でした。上越の思い出を共有する方々との交流は、お世話になるばかりで申し訳なく思いますが、有難く嬉しいことです。

